

ロタウイルス胃腸炎

春～夏にかけてのこの時期、嘔吐下痢が始まります。代表選手がロタウイルス（秋から冬はノロウイルス）です。今回はロタウイルス胃腸炎のお話し。

ロタウイルスは主に乳幼児を中心に流行します。ほとんどの子供が5歳までに感染します。特に注意が必要なのは0～1才のお子さん、ぐったりして、ときに入院が必要なこともあります。

嘔吐と発熱で始まり、続いて下痢がおこります。嘔吐と発熱は1日から2日程度続きます。下痢は水様性から泥状で、半数近くで白色～黄白色（クリーム色）の便となり独特の臭い（酸性臭）を伴います。発熱や嘔吐が治まっても下痢は続くことが多く、4，5日から1週間、長引くときは2週間続くこともあります。

嘔吐下痢の治療の第一は薬ではなく、水分補給です。下痢や嘔吐の中には水分以外に、塩分、糖分も含まれています。お茶や水では水分しか補給できませんので経口補水液やイオン飲料、嫌いで飲まないならリンゴジュースでの水分摂取を心がけましょう。最初の目安は体重と同じ水分量（10kgなら10mL）を5分おきに摂取する感じです。症状は1日で随分改善します。チビチビでいいので病気が通り過ぎるまで補水を続けましょう。

ロタウイルスは全ての子供が感染し、特別な治療法がなく、時に入院加療が必要なほど重症化することもある病気ですが、胃腸炎を起こすウイルスの中で唯一ワクチンが存在します。摂取することにより、発症しないか、発症しても軽症で済みます。残念ながら任意接種で有料となりますが、乳児期のロタは症状が強く出ることも多いのでワクチン接種をご検討下さい。